

令和4年度小松市立今江小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	学級活動・児童会活動等を通して、児童の主体性を育む。（田守・谷口）	肯定的回答 ① 児童：94% 保護者：88% 教職員：100% ② 児童：87% 教職員：100%	肯定的回答 ① 児童：96% 保護者：87% 教職員：94% ② 児童：88% 教職員：100%
	○学校や地域における積極的な挨拶を習慣化させる。児童会や高学年を中心に挨拶運動を企画・運営し、挨拶の良さを全校に広めていく。 ○学級活動や児童会活動等、児童が主体的に活動できる機会を計画的に設定する。 ①相手に伝わる挨拶を自分からしている。 【児童・保護者・教職員アンケート100%】 ②学級や学校のために主体的に行動している。 【児童・教職員アンケート100%】	① 児童会や高学年児童の意欲的な取り組みをきっかけに、気持ちのよい挨拶が習慣化している児童が増えてきた。しかし、アンケートの結果から、学校内では積極的な挨拶が出来ていても、地域や家庭における挨拶の様子には改善の余地があることが考えられる。啓発活動を継続させた上で、教職員の意識向上も図っていく。 ② 児童会活動では、6年生を中心に積極的に活動している委員会がほとんどである。ただ、さまざまな場面において自ら主体的に活動しているという意識や実感をもてていない児童も一定数いる。児童会活動はもちろんのこと、学級活動においても、児童が主体となって計画・実践し、振り返る機会を適切に設けることで、児童の達成感や自己有用感を伸ばしていく必要がある。	① 年度当初に比べ、児童の挨拶は良くなってきている。今年度は、教職員間で挨拶指導を努力目標に掲げて取り組んだのが奏功した。一方で、保護者の肯定的回答率がなかなか上昇しないということは、やはり児童が学校外での挨拶に消極的な状況であることが分かる。来年度以降も、挨拶に関する取り組みは継続していく必要がある。 ② 各委員会の委員長や学級委員など、児童会のメンバーは主体的に学級や学校のために行動している様子が見られる。ただ、それ以外の児童の中には残念ながら委員会の仕事や学級内の係活動等になる向きな児童も多い。「学校や学級のために主体的に行動する」とは具体的にどのようなことを指すのか、日々の学校生活において教師が適切に価値付け、児童の意識を向上させていく必要がある。来年度は、生徒指導部でモデル授業や高学年による出張授業等を企画し、学校全体でより良い学校づくりに対する意識の向上を図ってきたい。
特別支援教育	児童理解を活かした個別支援の実施（上出・住田）	肯定的回答 100%	肯定的回答 100%
	○支援が必要な児童への有効な支援のあり方を探るとともに、特別支援教育支援員、心の相談員、ＳＣの運用を工夫していく。 ○専門相談員や教育センターなど外部機関との連携を図る。 ・日常的な情報共有・実践、児童理解の会や特別支援教育校内委員会、また外部機関と連携を図ることで、児童への支援が適切に行われている。【教職員アンケート１００％】	支援が必要な児童について、4月当初に児童理解の会で昨年度からの引継ぎを全員で確認したり、校内支援委員会を開いて指導方針や具体的な手立て等について話し合ったりした。職員会議後には児童理解の会をもち、現状の確認や今後の支援について共通理解を図っている。また、特別支援教育支援員と心の相談員には児童個々の状況をみとめてもらい担任や授業担当者と情報交換を行っている。更に家庭内での事情等を抱える児童については、ＳＣとの面談や市の教育研究センター、医療機関等と連携した面談を設定する等、解決に向けて働きかけている。	職員会議後の児童理解の会では、気になる児童について全員で共通理解を図っていったことにより、どの先生でも困り感のある児童に対して、同じような対応をすることができた。特に支援が必要な児童に対しては、支援員や相談員などたくさんの職員が関わりをもち、対応できた。結果、保護者の理解も得られ就学相談を受ける方向に進めることができた。また、支援が必要であろう児童や、その保護者には相談員との相談や、市の教育センターでの相談など外部機関とのつながりを持たせることもできたので、来年度以降の支援にも活かしていきたい。
道徳教育	家庭と連携した道徳教育（小松）	肯定的回答 93% ・ファミリーワークは、親子の手紙などもあり、どの学級も計画的に行っている。	肯定的回答 93% ・ファミリーワークについてのアンケート結果が中間報告時と変わらない回答だった。クラスの実態により、実施できるかできないかが変わってしまうようなので、取り組み方の幅を広げること改善を図りたい。
	○道徳の授業を授業参観などを利用して公開する。 ○道徳の授業についてファミリーワークをする機会を年に2回設ける。 ・ファミリーワークする道徳の授業を年に2回行っている。【教職員アンケート90％】	・道徳の授業公開は、4月の授業参観・6月の学校公開があったが、公開した学級は14中9クラスであった。2学期以降に取り組めるよう、教職員に声掛けを行っている。	・全クラスで道徳の授業公開ができた。ファミリーワークと併せて行うことで、より効果的に行えるので、次年度以降も続けていきたい。
読書教育	読書の質を高める読書活動の推進（道下）	肯定的回答①全校71%（1年58% 2年81% 中学年77 高学年72%） ②87%	肯定的回答①全校72% ②81%
	○「本のとびら」の本を進んで読むよう働きかける。 ①「本のとびら」の本を読んだ児童が80％以上（全校） ②週1回、教師も読書をする。【教職員アンケート90％】	①読書マイスターになった児童が多くいる一方で、まだ「本のとびら」の本を借りていない児童もいる。クラスによってマイスターの達成者数や読書者（月2冊以下）の児童数に偏りが見られる。後期図書委員会では「本のとびら」を奮める企画をしたり、読んだ本を視覚化できるような名簿を作成したりする。 ②一緒に読書することに限らず、並行読書材や季節の本を紹介したり、おすすめの本の冒頭を読んだりすることで、子どもたちが本に興味を持つ機会を作っていく。	①各クラスに読書マイスター名簿を掲示することにより、児童の意欲につながったり、教師の声かけがしやすくなった。また、図書委員が企画したビブリオバトルや図書館まつりの成果として、図書室に足を運ぶ児童が増えてきている。課題は、クラス間の差や個人差があることである。担任によって、声かけの差が出ないように全校で統一した取組をしていきたい。 ②目標値を下回っている。朝の時間に余裕がない場合などにどのように本に関する活動をしていくかを職員同士で共有していきたい。
保健安全教育	健康な体づくりの推進（坂本・松村・中野）	①生活チェックカードより、1学期で就寝時間を守ることができた児童は全校の79.1%であった。（他項目は全て90%以上）2学期に学校保健委員会で、感染症予防と規則正しい生活の関係性について実施し、児童だけでなく保護者にも働きかけていく予定。 ②1～3年生は、1学期中に食育の授業は終了した。4～6年生は、2学期以降計画に則って授業を進める予定である。	①生活チェックカードより、2学期で就寝時間を守ることができた児童は全校の77.1%であった。（他項目は全て90%以上）1学期よりも就寝時間を守れている児童の割合は低くなっており、2学期で夏休み明けによる生活習慣の乱れや学校生活の慣れなどが影響していることが考えられる。年間を通して、規則正しい生活の重要性を意識できるようにする必要がある。来年度は、学校保健委員会だけでなく、学級での保健指導等も活用して、児童及び保護者へ働きかけていきたい。 ②2学期末までに1～5年生の食育授業を実施した。3学期には6年生の「マナー給食」を行い、全クラスの食育授業が終了する予定である。
	○規則正しい生活リズムが身につくように働きかける。（特に就寝時間） ○児童の食事を通しての健康意識を育む。 ①寝る時間を守っている児童が80％以上【生活チェックアンケート】 ②各クラスに年に1回の食育授業を実施する。【教職員アンケート100%】	肯定的回答：93% ・1学期に委員会での授業に準備運動として行える簡単な腹筋運動を全校に促すビデオを作成した。2学期以降では、作成したビデオを用いて児童の筋持久力を高めていけるよう呼びかけていく。	肯定的回答：80% ・11月に実施した体力テスト(上体起こし)の2回目は【4年男子：11 (+0.33) 4年女子：13 (+0) 5年男子：19 (+0.07) 5年女子：18 (-0.24) 6年男子：24 (+2.83) 6年女子：21 (+1.32) 】という結果だった。体育の時間の準備運動のみでは筋持久力の向上は難しかったと思われる。来年度は、全校を巻き込んだ大会等を企画し、児童のモチベーションアップを図ってきたい。
体力向上	体育授業を通して児童の筋持久力を高める（濱本）	肯定的回答：93% ・1学期に委員会での授業に準備運動として行える簡単な腹筋運動を全校に促すビデオを作成した。2学期以降では、作成したビデオを用いて児童の筋持久力を高めていけるよう呼びかけていく。	肯定的回答：80% ・11月に実施した体力テスト(上体起こし)の2回目は【4年男子：11 (+0.33) 4年女子：13 (+0) 5年男子：19 (+0.07) 5年女子：18 (-0.24) 6年男子：24 (+2.83) 6年女子：21 (+1.32) 】という結果だった。体育の時間の準備運動のみでは筋持久力の向上は難しかったと思われる。来年度は、全校を巻き込んだ大会等を企画し、児童のモチベーションアップを図ってきたい。
	○授業において筋持久力を高めるための運動に学年毎に取り組む。 ・授業において筋持久力を高めるための運動に取り組んでいる。【教職員アンケート100%】	肯定的回答：93% ・1学期に委員会での授業に準備運動として行える簡単な腹筋運動を全校に促すビデオを作成した。2学期以降では、作成したビデオを用いて児童の筋持久力を高めていけるよう呼びかけていく。	肯定的回答：80% ・11月に実施した体力テスト(上体起こし)の2回目は【4年男子：11 (+0.33) 4年女子：13 (+0) 5年男子：19 (+0.07) 5年女子：18 (-0.24) 6年男子：24 (+2.83) 6年女子：21 (+1.32) 】という結果だった。体育の時間の準備運動のみでは筋持久力の向上は難しかったと思われる。来年度は、全校を巻き込んだ大会等を企画し、児童のモチベーションアップを図ってきたい。
情報教育	情報モラル教育の充実と学習用端末を使った授業づくり（清水）	①肯定的な回答が82%であり、目標には未到達である。活用計画自体の見直しを図る必要性があり、実現可能な計画の設定となるように新学期開始前に担当と各学級担任が計画の見直しを行う。その際、単元の配列等との関連を含めて検討したい。また、計画を意図して実行していくために情報担当から、定期的に呼びかけを行う。 ②肯定的な回答が88%であり、目標には未到達である。授業者と児童らの努力により、児童のICT活用能力は向上している。さらなる活用能力の向上のため、各種校内研修を通して職員らに効果的な活用場面の提案をICT通信や校内研修で行う。	①肯定的な回答が93%であり、目標には未到達である。おむむね指導計画通りに指導は進んでいる。しかし、ICT活用指導計画のさらなる見直しが必要であり、優先度の低い指導内容を省いたり、指導時期の変更を行ったりする。 ②肯定的な回答が100%であり、目標は達成している。学校全体として、ICTを授業に取り入れ効果的に活用している職員が増加している。さらなる児童のICT活用能力向上のために、効果的な実践を教員間で共有していく機会を増やす。
	○学年に応じたICT活用指導計画を計画的に行う。 ○児童の理解を深める有効な学習用端末の使い方を提案し、活用できるようにする。 ○教職員の授業交流の際、ICTを活用した授業を公開し合う。 ①ICT活用指導計画を計画的に行う。【教職員アンケート100％】 ②学習用端末を活用した授業をとおして、児童のICT活用能力が向上した。【教職員アンケート90％】	肯定的回答：93% ・1学期に委員会での授業に準備運動として行える簡単な腹筋運動を全校に促すビデオを作成した。2学期以降では、作成したビデオを用いて児童の筋持久力を高めていけるよう呼びかけていく。	肯定的回答：80% ・11月に実施した体力テスト(上体起こし)の2回目は【4年男子：11 (+0.33) 4年女子：13 (+0) 5年男子：19 (+0.07) 5年女子：18 (-0.24) 6年男子：24 (+2.83) 6年女子：21 (+1.32) 】という結果だった。体育の時間の準備運動のみでは筋持久力の向上は難しかったと思われる。来年度は、全校を巻き込んだ大会等を企画し、児童のモチベーションアップを図ってきたい。
人材育成	若手教員研修の計画実践（貝田）	肯定的回答：100% ・今後も必要感に合わせた内容を計画的に取り組んでいく。	肯定的評価：100% ・時間を確保することが難しかったが、職員会議や研究全体会と合わせて実施することで、時間の確保につながった。今後も若手教員の必要感に合わせて計画的に取り組む。
	○若手教員研修計画に沿って、企画委員会が取組の進捗を確認しながら研修を行う。 ・OJTや研修において、学びがあったと感じている。【教職員アンケート100%】	肯定的回答：100% ・今後も必要感に合わせた内容を計画的に取り組んでいく。	肯定的評価：100% ・時間を確保することが難しかったが、職員会議や研究全体会と合わせて実施することで、時間の確保につながった。今後も若手教員の必要感に合わせて計画的に取り組む。

学校関係者評価	○学校評価結果より ・特別に支援が必要な子がいると思うが、保護者への連絡を丁寧に行い、保護者との信頼関係を今後も大切にしてほしい。 ・業務改善の話があるが、先生方は大変だと思う。休日に出勤している様子も見ることがある。
	○児童の日頃の様子 ・横断歩道で挨拶できる子が多い。これからも続けてほしい。 ・児童の挨拶はとても良いが、家庭ではできているのかと思う。 ・日常的に会う場所以外で会った際にも挨拶ができるようになってほしい。 ・今江ことも園前の道路の歩き方が危険な時がある。 ○その他 ・ホームページの更新を継続し、学校の様子を情報発信してほしい。 ・学校の様子をより多くの方に閲覧いただくため、コドモンにホームページのURLを掲載してお知らせしてもいいのではないかなと思う。